核兵器のない世界を！たくさんの署名をニューヨークへ！

西病・田村SW ピースチャレンジャー～署名30筆以上達成

中央：川島医師、右：田村SW、左：佐々木組織課長

川島先生にたくさんの署名を託そう

全日本民医連がNPT再検討会議に向け、「核兵器のない世界を」署名30筆以上を集める「ピースチャレンジャー」を募集しています。青年ジャンボリー道実行委員会ではみんなが応募しようと意思統一し、2/6には雪の降る中、札幌中心街で署名も行いました。

西区病院田村SWはジャンボリー事務局長でもあり、西区病院から川島亮平医師も参加することから、がんばって集め、第1号で達成しました（下に談話）。

NPT再検討会議−中央病院・札幌病院からも代表

中央病院では逸見由紀医師が決まり、札幌病院も小林由佳こどもクリニック看護師が決まっています。保険企画、歯科、在宅も代表が決まりました。

あなたもピースチャレンジャーに？

「核兵器のない世界を！」署名用紙を、3/1の友の会新聞へ折り込みます。多くの人に署名を頼みましょう。

西区病院　ソーシャルワーカー　田村優実さん

患者さんやご家族に「核兵器廃絶にむけてご協力お願いします。川島先生がニューヨークに行きます！」とお話しすると皆さん快く署名してくれました。中には、本州の親戚に電話をかけて代筆してくれた方もいました。思いを伝えること、その思いに応えてくれることの素晴らしさを感じることができました。署名だけではなく、多くの方に発信できるよう工夫を凝らした運動をしていきたいと思います。

手遅れ死が09年に4人－国保資格証明など

国保資格証明書などにより手遅れ死になった方が、09年にも札幌で4人発見されました。北区ぽぷらで1、中病で1、札病で1、札病～中病で1人が死亡しています。いずれも資格証明書や無保険状態で勤医協を受診しましたが、その時にはすでに手遅れ状態でした。3人がガン、1人が脳出血でした。

【事例1・札幌病院】

64歳男性、独居。2年前まで生活保護を受給していたが年金支給になり保護が廃止。しかし月額10万円に満たない年金のため生活は苦しく、国保料を払えず、短期保険証になりやがて資格証明書に。他院での糖尿病治療も中断していた。09年4月に札病へ無料・低額診療制度の相談あり、眼科受診したところ脳出血を認め、脳外科のある病院へ紹介。即日入院となったが翌日亡くなられた。

【事例2・北区】

67歳男性。15歳から大工として働いていたが、近年は不況で仕事も少なく国保料も払えない状態だった。07年夏ごろから体調不良を感じていたが、痛みをこらえながら仕事に出ていた。08年になって腹部や背中の痛み、疲労感やだるさが強くなってきて、食事も採れないような状態になった。62kgあった体重が1年間で48kgにまで落ちた。国保資格証明書のため受診もできず、ため息をつきながら暮らしていた。北区の生活と健康を守る会の紹介で北区ぽぷらクリニックの無料・低額診療制度を紹介され、08年10月に受診。生活保護申請もした。検査結果が悪く中央病院へ入院し精査したところ、すい臓がんと判明。一時退院したものの、再入院となり09年1/23に亡くなられた。

共同デスク

No.５０７　2010年2月20日

北海道勤医協本部組織広報部
TEL 823-0867fax821-3701